

製品名: MKP-1 (リン酸化 Ser359) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab05024**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF, ELISA
反応性	ヒト、ラット、マウス
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率 IHC 1:100-1:300, ICC/IF 1:50-1:200, ELISA 1:5000-1:20000

分子量

抗原情報

遺伝子名	DUSP1 DUSP1; CL100; MKP1; PTPN10; VH1; Dual specificity protein phosphatase 1; Dual specificity protein phosphatase hVH1; Mitogen-activated protein kinase phosphatase 1; MAP kinase phosphatase 1; MKP-1; Protein-tyrosine phosphatase CL100
別名	
遺伝子 ID	1843.0
SwissProt ID	P28562
免疫原	抗血清は、Ser359 のリン酸化部位周辺のヒト MKP1 由来の合成ペプチドに対して作製された。 アミノ酸範囲: 318-367

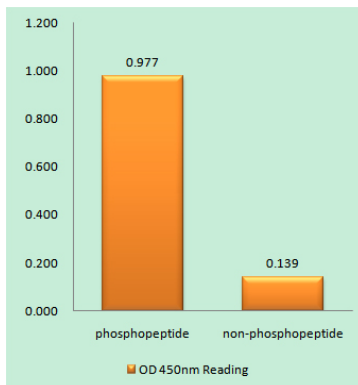
背景

DUSP1 遺伝子の発現は、ヒト皮膚線維芽細胞において、酸化ストレス / 熱ストレスおよび成長因子によって誘導される。DUSP1 は、非受容体型タンパク質チロシンホスファターゼファミリーのメンバーと構造的特徴が類似するタンパク質を特異的に発現し、ワクシニアウイルス後期遺伝子 H1 によってコードされるチロシン / セリンタンパク質ホスファターゼと顕著なアミノ酸配列相同性を示す。細菌で発現・精製された DUSP1 タンパク質は、固有のホスファターゼ活性を有し、in vitro において、ホスホトレオニン残基とホスホチロシン残基の両方を同時に脱リン酸化することにより、マイトジェン活性化タンパク質 (MAP) キナーゼを特異的に不活性化化する。さらに、アフリカツメガエル卵母細胞抽出物中の発癌性 ras による MAP キナーゼの活性化を抑制する。したがって、DUSP1 は、環境ストレスに対するヒトの細胞応答だけでなく、細胞増殖の負の調節にも重要な役割を果たしている可能性があります。触媒活性:リン酸化タンパク質 + H(2)O = タンパク質 + リン酸。触媒活性:タンパク質チロシンリン酸 + H(2)O = タンパク質チロシン + リン酸。機能:MAP キナーゼ ERK2 の 'Thr-183' と 'Tyr-185' の両方を脱リン酸化させる二重特異性ホスファターゼ。誘導:酸化ストレスと熱ショックによって。類似性:タンパク質チロシンホスファターゼファミリーに属します。非受容体クラス二重特異性サブファミリー。類似性:ロダナーゼドメインを 1 つ含む。類似性:チロシンタンパク質ホスファターゼドメインを 1 つ含む。組織特異性:肺、肝臓、胎盤、膵臓で高発現。心臓および骨格筋では中等度の発現が認められる。脳および腎臓では低発現。

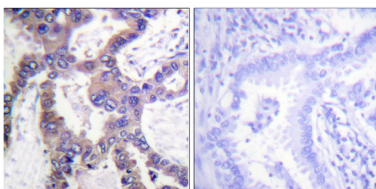
研究分野

MAPK_ERK_成長;MAPK_G_タンパク質;

画像データ



MKP1 (リン酸化 Ser359) 抗体を用いたリン酸化ペプチド (リン酸化左) および非リン酸化ペプチド (リン酸化右) 免疫原の酵素結合免疫吸着測定 (リン酸化 ELISA)



MKP1 (リン酸化 Ser359) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。